

平成22年度  
長崎県研究事業評価委員会  
環境保健分野研究評価分科会  
報 告 書

平成22年9月30日

長崎県研究事業評価委員会環境保健分野研究評価分科会は、「長崎県政策評価条例」、「政策評価に関する基本方針」にもとづき、長崎県研究事業評価委員会委員長から依頼があった研究内容について調査・審議を行なったので、次のとおり報告するとともに、意見を申し述べる。

平成22年9月30日

長崎県研究事業評価委員会  
環境保健分野研究評価分科  
委員長 中 島 憲一



### 1. 評価日および場所

平成22年7月 8日（木） 於：環境保健研究センター  
平成22年8月20日（金） 於：環境保健研究センター

### 2. 審議案件（4件）

経常研究：事前評価2件、途中評価1件、事後評価1件

### 3. 分科会委員

氏 名	役 職	備 考
中島 憲一郎	長崎大学 副学長	委員長
武政 剛弘	長崎大学大学院生産科学研究科 教授	副委員長
大石 和代	長崎大学医学部保健学科 教授	
葛西 宏直	株式会社マリン技研 常務取締役	
竹内 和久	三菱重工業株式会社 技術本部 長崎研究所 化学研究室 主席研究員	
山口 優親	西部環境調査株式会社 代表取締役社長	

#### 4. 総合評価

総合評価段階は下表のとおりであった。

評価対象		総合評価※				課題数
種類	時点	S	A	B	C	
経常研究	事前		2			2
	途中		1			1
	事後		1			1

##### ※総合評価の段階

###### (事前評価)

S＝積極的に推進すべきである

A＝概ね妥当である

B＝計画の再検討が必要である

C＝不相当であり採択すべきでない

###### (途中評価)

S＝計画以上の成果あげており、継続すべきである

A＝計画どおり進捗しており、継続することは妥当である

B＝研究費の減額も含め、研究計画等の大幅な見直しが必要である

C＝研究を中止すべきである

###### (事後評価)

S＝計画以上の成果を上げた

A＝概ね計画を達成した

B＝一部に成果があった

C＝成果が認められなかった

## 研究テーマ別評価一覧表

種類	時点	研究テーマ名	研究機関	総合評価	
				機関長 自己評	分科会 評価
経常	事前	閉鎖性海域大村湾及びその流域における溶存有機物に関する研究	環境保健研究 センター	A	A
	事前	病原ビブリオの感染源究明のための迅速検出技術に関する研究		A	A
	途中	無菌性髄膜炎の集団発生を惹起するエコーウイルス分子性状に関する研究		A	A
	事後	野生動物の病原体保有状況に関する研究		A	A

## 5. 研究テーマ別コメント

### (1) 経常研究（事前）

#### ○「閉鎖性海域大村湾及びその流域における溶存有機物に関する研究」

**研究概要：**大村湾における難分解性溶存有機物の存在を検証した先行研究を基盤として、本研究では調査方法及び調査地点のステップアップを図り、大村湾及びその流域における溶存有機物の実態把握を目的とする。

**必要性：**大村湾のCOD環境基準達成という課題に向けて、その手段を考えるうえでの基礎調査としては意義があり必要性が高い研究である。大村湾の水産業活性化なども視野に入れて研究を進めて欲しい。

**効率性：**研究手法は合理的であるが、大学等との連携を図ることですらに効率化を図り、研究体制を充実させていただきたい。また、大村湾の水質改善対策に向けて、先行研究の調査や研究に必要なデータの取得を十分行って欲しい。

**有効性：**新規性・優位性には乏しいが、大村湾の浄化に向けた新しい視点を生み出す可能性があり、実質的な手段を考えるうえで有効な研究である。社会効果への即時的な波及は難しいと思うが、大村湾の水産業活性化という視点も視野に入れて進める必要がある。

**総合評価：**今後の大村湾水質改善対策として県行政の政策立案に大きく寄与することが期待される有用な研究である。大村湾の問題については、センターのみならず総合的に取り組んでいくとともに、難分解性溶存有機物の分解方法や湾内の水産業の活性化など、ワンステップ上の目標も視野に入れた

研究展開として欲しい。

○「病原ビブリオの感染源究明のための迅速検出技術に関する研究」

研究概要：増殖能力を有する細菌の高感度検出法として有用なFISH法を応用した迅速検出技術を用い、特定病原ビブリオ（ビブリオ・バルニフィカス、耐熱性溶血毒産生性腸炎ビブリオ及びコレラ）の迅速かつ高精度な定量法を確立し、感染症や食中毒の原因の早期究明に活用することで、食の安全確保・健康の維持等に資する。

必要性：県民の健康維持や食の安全という観点から、公設研究機関としての研究の必要性は高いが、研究の意義や具体的な対策、展開について整理して欲しい。

効率性：対象を絞り込み現行法との比較研究を行うものであり、また、大学との研究協力・支援体制も確立していることから、効率的な研究展開が期待できる。

有効性：研究成果は、感染症や食中毒の原因解明等広く応用可能であり、有効性は高く、社会的波及効果も高い。PDCAを用いて迅速かつ確実に成果を出し、得られた成果については広く公表して欲しい。

総合評価：本研究は、優れた検出法の開発を行う先駆的な研究であり、食中毒や感染症の原因究明に役立つと考える。県民の安全・安心に対して本研究が資する必要性についてさらに検討し、公定法に取り入れられるようにして欲しい。

## (2) 経常研究 (途中)

### ○「無菌性髄膜炎の集団発生を惹起するエコーウイルス分子性状に関する研究」

研究概要：2005年に長崎県下で無菌性髄膜炎（AM）の流行を惹き起したエコーウイルス9型（E9）のウイルス分子性状を明らかにし、病原性に関与する遺伝子部位を探索し、AMの集団発生の制御に繋がる研究基盤を構築する。

必要性：今後も県内で発生する危険性があり、ウイルス性病原のメカニズム解明は健康危機管理体制の確立に向けて必要な研究である。

効率性：協力機関との連携体制が十分図られている。また、実験方法の改良等により新型インフルエンザ対策等の緊急業務との両立が図られており、効率性が高い。

有効性：本研究の成果は、他の類縁ウイルスの病原性解明や診断系構築にもつながることが期待される。

総合評価：計画どおりの進捗がみられている。最終的にE9ウイルスの病原性に関して重要な知見が得られ、その成果については県民が利用できるかたちでまとめて欲しい。



### (3) 経常研究（事後）

#### ○「野生動物の病原体保有状況に関する研究」

研究概要：野生動物の病原体保有状況を把握し、地域性等特徴的な要因の解明や感染源等の究明への足がかりとし、野生動物感染症予防マニュアルの作成や県民に広く情報還元することにより食の安全確保・健康被害防止等に資する。

必要性：社会情勢のほか、県民の衛生、健康を維持するうえで、重要度の高い研究であった。今後は、野生動物を食する場合の危険性などを県民に的確に情報提供する必要がある。

効率性：一部の病原体調査に不十分な点がみられたが、他の研究機関や関連施設との協力体制のもと、効率的なデータ収集を行い、有効な研究展開が図られている。

有効性：一部未達成課題があり問題点は残るが、感染症予防マニュアルとして成果をまとめ、関係機関等に情報提供することで、大変有効な研究であった。今後の食の安全・安心や感染症対策につながることを期待される。

総合評価：大変有意義で期待された成果を残している。今後は、検査結果やマニュアルについて県民だけでなく農業分野などにも情報提供するとともに、さらに県民の安全・安心対策に貢献できる研究展開を図って欲しい。

## 6. 分科会総評

意見等なし。

## 7. その他報告事項

昨年度の研究事業評価委員会において、「事前評価、途中評価を行った後に、研究目標等に大幅な変更が生じた場合には、直近の事業評価委員会又は分科会等で再度評価を受ける等検討する必要がある」との意見があったことから、経常研究「諫早湾干拓調整池に係る水質浄化研究」（平成21～22年度）について一部研究内容を変更する旨報告があった。

### 変更内容及び変更理由

活動指標のうち、以下について変更する。

変更内容	変更理由
「水質変動の比較及び生育度のチェック」を「水質や植物中成分の変動及び生育度のチェック」とする。	水質変動は軽微で、外部誤差要因も考えられることから成分試験等を追加
「オゾン濃度と水質変動評価」を「5回」から「5種（条件）」とする。	季節による外的誤差を考慮し、短期間に数種の条件を変えた試験を実施
「農林バイオマス3号の稼働試験」を「農林バイオマス3号のバイオ燃料としての適用性試験」とする。	対象植物の成分分析結果からバイオ燃料としての適否判断が可能

### 報告に対する意見：

内容の変更については了承する。

バイオマスへの検討については、実用性の有無についても十分考慮して欲しい。また、現在行っている研究内容が、諫早湾干拓の営農に資するような展開を図って欲しい。

(参考) 環境保健分野研究評価分科会評価一覧表

	課 題 名	視 点	評 価
事前	閉鎖性海域大村湾及びその流域における溶存有機物に関する研究	必 要 性	A
		効 率 性	A
		有 効 性	A
		総 合 評 価	A
	病原ビブリオの感染源究明のための迅速検出技術に関する研究	必 要 性	A
		効 率 性	A
		有 効 性	A
		総 合 評 価	A
途中	無菌性髄膜炎の集団発生を惹起するエコーウイルス分子性状に関する研究	必 要 性	A
		効 率 性	A
		有 効 性	A
		総 合 評 価	A
事後	野生動物の病原体保有状況に関する研究	必 要 性	A
		効 率 性	A
		有 効 性	A
		総 合 評 価	A

